

にをさせない様にと、巡查共が氣を付けたのだ。

俺は風呂敷包みを解いてみた。

果して餅の焼いたのと、握りめしとが、白紙に包んで折箱に入れてあるのだ。

俺は非常に腹が立つた。いつまで俺を精神病者扱ひにするのか。

俺はそいつを大地に打つ突けといて、自轉車を持つて、坂を押し上げた。

上は平坦だつた。

自轉車に乗つて走つてみた。

心臓がうるたへて足が思ふ様に運ばなかつた。

二三丁行くと降りて、自轉車を持つて歩るく、下り坂になると又乗る。

してゐる中に後ろの方から十二三人が、各々混棒や青竹をしごいて、トキの聲を擧げて追つ驅けて来る。

俺は自轉車をオツボリ出して身構へした。

『近寄らばドイツコイツの用捨ない、此の火箸で突き殺すぞ』